

第16回定期総会・講演会開催される

日 時 2022年6月18日(土) 14:00~15:30
場 所 藤沢市役所分庁舎 2階活動室2



金指来賓代表挨拶



御来賓の皆様



出席者の皆さん

総会は、唐松総務部長より会員数58名(4月1日現在)出席会員41名(団体8、個人33)で定款27条に定める定数を満たし総会成立の報告の後、大田理事長の挨拶に続いて、来賓代表として金指危機管理課課長よりお言葉ををいただき議事に入りました。互選により大田哲夫氏を議長に選任。大田哲夫氏より鈴木信夫氏を書記に、佐藤俊平氏及び小林亘氏を議事録署名人に選び、報告事項、提案事項について審議し全てが承認されました。

■2021年度 事業報告・決算報告(要約)

F S V ネットの存在を地域の自主防災組織に理解していただき、当ネットワークへの加入により日頃から顔の見える関係づくりとF S V ネットを活用した地域防災力の向上促進と支援を計画しましたが、新型コロナウイルス拡散防止のための自粛要請により大半の事業が中止になりました。

- 市民活動及びボランティア活動を行う団体・個人のネットワーク化の推進。
 - ・災害を想定した連絡員による通信実証⇒中止。
- 災害時の活動・拠点及び情報伝達手段の整備、体制づくり。
 - ・サテライトセンター設置支援⇒2021年12月4日 片瀬小学校における片瀬地区総合防災訓練に紹介ブースを設け参加。5名参加。
 - ・情報伝達の体制づくり⇒中止。
- 災害を想定したシミュレーション訓練、各種講座の開催、広報啓発。
 - ・災害救援ボランティアセンター設置・運営訓練⇒中止。
 - ・災害ボランティアコーディネーター養成講座⇒中止。
 - ・会報「FSVnet ニュース」の発行⇒中止。
 - ・講座、講演パンフレット等各種資料⇒理事長変更によりパンフレット1000部作成。

- ・防災セミナー他⇒中止。
- 相互理解のための交流の場づくり
 - ・シンポジウム、交流会参加⇒中止。
- 大規模災害被災者支援
 - ・交流会・相談会、各種支援⇒中止。
- 定款の一部変更
 - ・事務所を固有の住所から藤沢市に変更。
- 2021年度 収支決算概要

特定非営利活動に係わる事業会計

2021年4月1日より2022年3月31日迄

科 目	予算額	決算額	差異(予-決)
当期収入合計(A)	285,000	75,507	209,493
当期繰越収入差額	865,733	865,733	0
収入合計(B)	1,150,733	941,240	209,493
当期支出合計(C)	285,000	203,313	81,687
当期支出差額(A)-(C)	0	-127,806	127,806
次期繰越収支差額(B)-(C)	989,135	737,927	251,208

【参考】災害ボランティアコーディネーター数

1, 片瀬地区	27名	2, 鶴沼地区	117名
3, 辻堂地区	16名	4, 村岡地区	113名
5, 藤沢地区	22名	6, 明治地区	8名
7, 善行地区	53名	8, 湘南大庭地区	59名
9, 六会地区	76名	10, 遠藤地区	31名
11, 湘南台地区	9名	12, 長後地区	10名
13, 御所見地区	3名		
藤沢市内合計		544名 (R4/3)	

■2022年度事業計画

- 1、自主防災組織による地域防災力の向上支援
- 2、関係団体、行政との連携強化
 - ①市民活動及びボランティア活動を行う団体・個人のネットワーク化の推進
 - ②災害時の活動・拠点及び情報伝達手段の整備、体制づくり
 - サテライトセンター設置支援 ○情報伝達の体制づくり
 - ③災害時を想定したシュミレーション訓練、各種講座の開催、広報啓発
 - 災害救援ボランティアセンター設置・運営訓練 ○災害ボランティアコーディネーター養成講座(初級・入門) ○会報の発行

行2回 ○講座、講演パンフレット等作成

- 防災セミナー開催
- ④相互理解のための交流の場づくり
 - シンポジウム、交流会参加
- ⑤大規模災害避難者支援

■2022年度収支予算書

科目	予算額	備考
当期収入合計(A)	123,000	
当期繰越収入差額	737,927	会費、事業費、補助金、広告等
収入合計(B)	860,927	
当期支出合計(C)	123,000	
当期支出差額(A)-(C)	0	事業費、管理費等
次期繰越収支差額(B)-(C)	737,927	

記念講演 「地区防災計画を知ろう」は目からウロコ!!

記念講演として鶴沼探求クラブの柳田敏雄氏に地区防災計画について講演をして頂きました。柳田氏は地元の役に立ちたいと災害研究部会を立ち上げ、災害関連のテーマを深掘りして紹介しています。今回は地区防災計画とはどんなものかを解りやすく紹介して頂きました。

国の定める「防災基本計画」、都道府県市町村の「地域防災計画」がありますが地域住民や事業者が作る「地区防災計画」は、何処でも誰でもいかに作れる防災計画で形式も特に定めは無く、行政と一線を画す画期的な概念の計画です。

例として高知県の黒潮町の地域の特性を知る住民が自ら作った計画は、高台に防災倉庫を設け、



理事長より柳田講師の紹介

各世帯ごとの衣装ケースに避難後に必要な物を入れて備蓄しておき、発災時には何も持たず高台に逃げるなど、住民一人ひとりが自ら考えた、簡単に誰でも出来る計画にはまさに目からウロコの体験でした。

第16回定期総会を終えて

理事長 大田 哲夫

長引くコロナ感染症のために書面表決の総会が続きましたが、3年ぶりに対面形式の総会を開催する事が出来ました。しかし新たな変異ウイルスが蔓延し始めて第7波のピークを迎えようとしています。今年度こそ計画通りに事業が進められると期待してスタートを切りましたが、不安は尽きません。ここ数年の間に自然災害は激甚化し頻度も高まっています。千島海溝、日本海溝地震、首都直下地震、南海トラフ地震と地球温暖化による台風や豪雨災害の多発、火山

活動の活発化などまさに災害列島に住んでいる事を感じざるを得ません。今私たちがやらなければ成らない事は「備えよ、常に！」です。これはボーイスカウトの指導者のモットーですが、どんな事にも応じる対応力を身につけ「さあこい、準備はすべて出来ている」という意味です。コロナ禍での難しい状況ですが、皆様と力を合わせ備えを一つひとつ確実に充実させて行きましょう。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

市庁舎を使用した防災フェアと三者連携によるボランティアセンター設置・運営訓練

昨年はコロナ感染拡大防止により藤沢市総合防災訓練は中止になりましたが、今年は名称を「防災フェア」として市庁舎で展示主体の開催となります。FSVでも活動内容展示と加入啓発の活動を行います。また10月には総合防災訓練で行われて来た、三者連携による災害ボランティアセンター開設・運営訓練を、発災時に実際に使用する市庁舎にて行います。ぜひご参加をお願い申し上げます。

■防災フェア 9月3日(土) 10:00~15:00 市本庁舎とその周辺

■災害ボランティアセンター設置・運営訓練10月16日(土) 分庁舎、サンライズ広場

※時間帯等の詳細が決まり次第お知らせ致します

編集後記

今年度から町内会長になった。何処の町内でも一番の課題は災害時要援護者と民生委員のなり手がいないことだ。誰でも何れ要援護者にも民生委員の世話になる時が来る。これこそまさに「備えよ 常に」で自分の事として考えねばならない。

T.O

FSVネットニュース

発行者 大田 哲夫
 発行所 特定非営利活動法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク
 〒251-0024 藤沢市鶴沼橋1-11-8
 ☎(代) 090-4849-8135 fax 0466-22-5344
 E-mail: fsvnet@arts-k.com